



合理的配慮とは「思いやり」

配慮が必要な生徒への教え方の工夫を考えるとき、まず、その生徒が「何に困っているのか?」「どうして欲しいのか?」という思いを受け止め、対応することが最も大切な視点です。大人の一方的な指導や価値観を押し付けず、本人の気持ちに寄り添って一緒に考えて、工夫していくことが求められています。

※障害者差別解消法(平成28年4月)が施行され、個別対応が義務化されました。合理的配慮の欠如は差別になります。



合理的配慮を行うにあたって

お互いの個性を尊重し、違いを認め合える人権教育が必要です。これまでの価値観を変えて、みんなが足並みを揃えて学ぶという方法から、みんな違っていいという考え方へシフトするのが大前提になります。生徒たちが、いろいろな違い(個性)を認めあい多様性を受け入れられる学級作りが必要です。



ご相談はこちらの窓口へ

沖縄県立総合教育センター
特別支援教育班
〒904-2174 沖縄県沖縄市与儀3丁目11番1号
TEL:(098) 933-7526 FAX:(098) 933-7528
<http://www.edu-c.open.ed.jp>



具体的な合理的配慮で考えられること

(基礎的な環境整備とは?)

①すべての生徒へ

バリアフリーやユニバーサルデザインに対応した施設の整備、障がいの状態に応じた活動スペースやグッズなどが必要です。また、障がいの状態に合わせて専門技術のあるスタッフや、さまざまな活動を支援する人材の配置があげられます。

②視覚が不自由な生徒へ

教室を十分に明るくし、教科書を拡大できるような環境を備え、校内・通学路ともに音声信号、点字ブロックなどの安全設備や教科書、教材、図書などの拡大版および点字版が必要です。

③聴覚が不自由な生徒へ

FM式補聴器を用意し、教材用ビデオへ字幕を入れるなどがあげられます。

④知的障がいのある生徒へ

生活能力や職業能力を育むための訓練室や作業室などを備えたり、漢字の読みなどへの対応が望されます。

⑤肢体不自由の生徒へ

医療的ケアが必要な生徒がいる場合は、対応できる部屋や設備を備え、看護師の配置などの体制を整えましょう。車いす・ストレッチャーなどの施設や設備を整え、障がいの状態に応じた給食の用意も必要です。

⑥病弱・身体虚弱のある生徒へ

個別学習や情緒安定のための小部屋などや、車いす・ストレッチャーなどを使用できる施設設備が望されます。また、入院、定期受診などにより授業に参加できなかった期間の学習内容のフォローが必要です。学校で医療的ケアを必要とする場合は、肢体不自由の場合と同じです。

⑦言語障がいのある生徒へ

構音障がいなどで発音が不明瞭な場合は、支援者が言語化する又は文字で表すなどの配慮が必要です。

⑧情緒障がいのある生徒へ

かん默や自信喪失などにより人前では話せない場合などは、個別学習や情緒安定のための小部屋などを用意し、対人関係の状態に対する配慮が必要です。

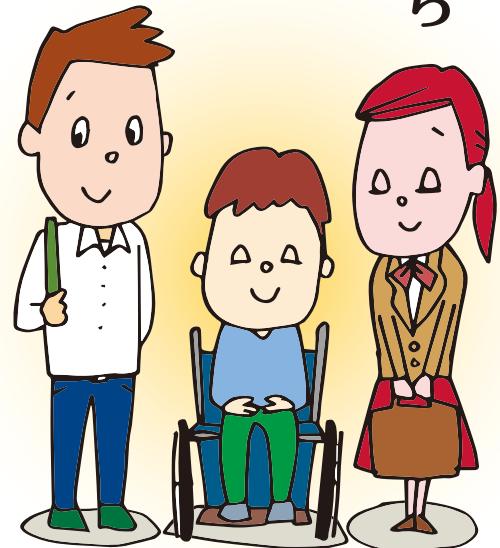
⑨LD、ADHD、自閉症等の発達障がいのある生徒へ

個別指導のためのコンピュータ、デジタル教材などを用意し、クーラダウンするための小部屋なども必要です。口頭指導だけでなく、板書、メモなどの活用も望されます。

選べる時代に

一人ひとりの力夕チは

みんな違てるから

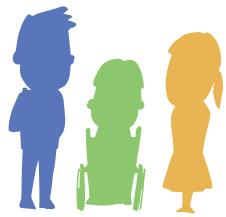


学校での合理的配慮のことを
知っていますか?

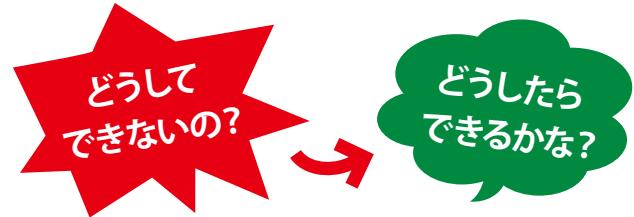
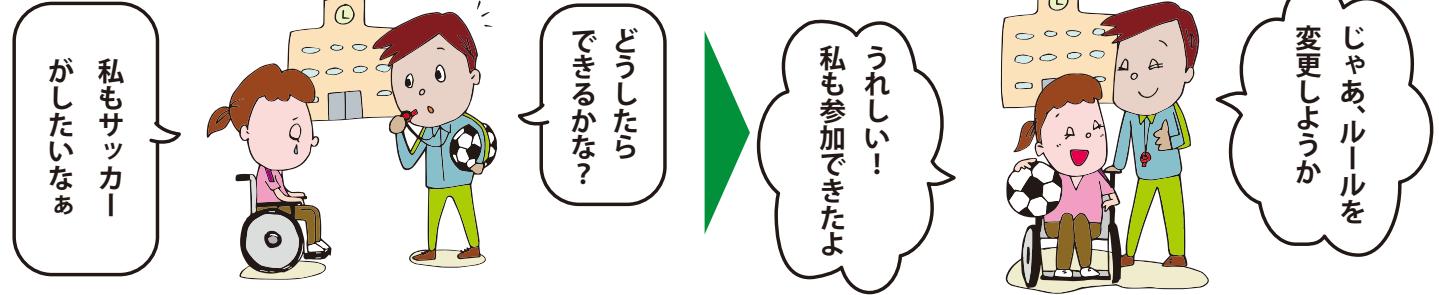
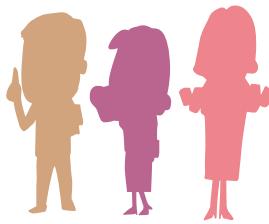
NPO法人わくわくの会

相談支援事業所 さぽーとせんたーi
〒900-0012 沖縄県那覇市泊1-18-8
電話・FAX:098-861-1187
メール:wakusapo.i@gmail.com

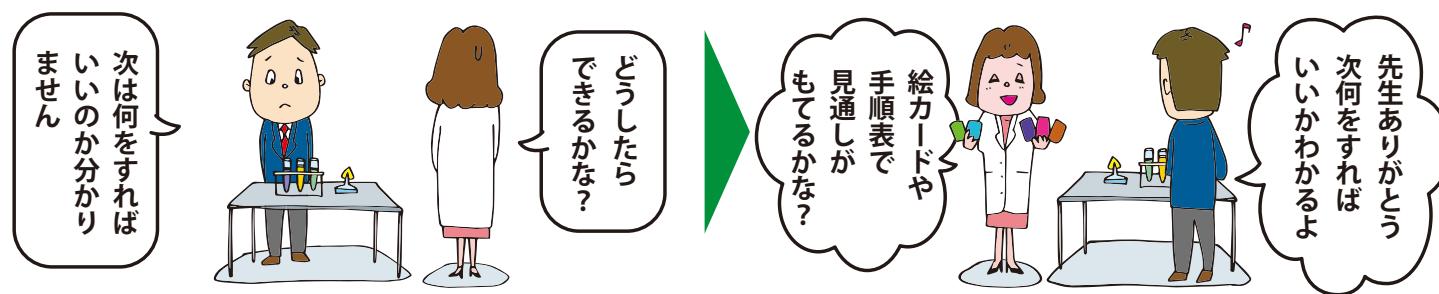
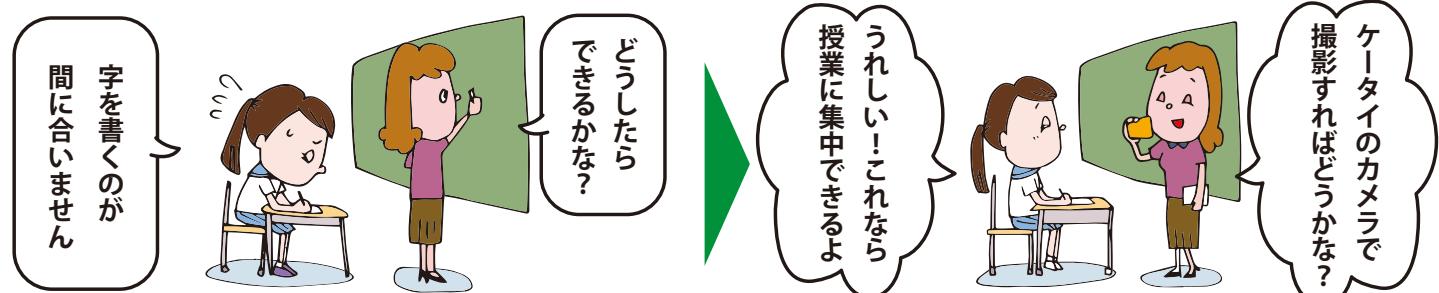
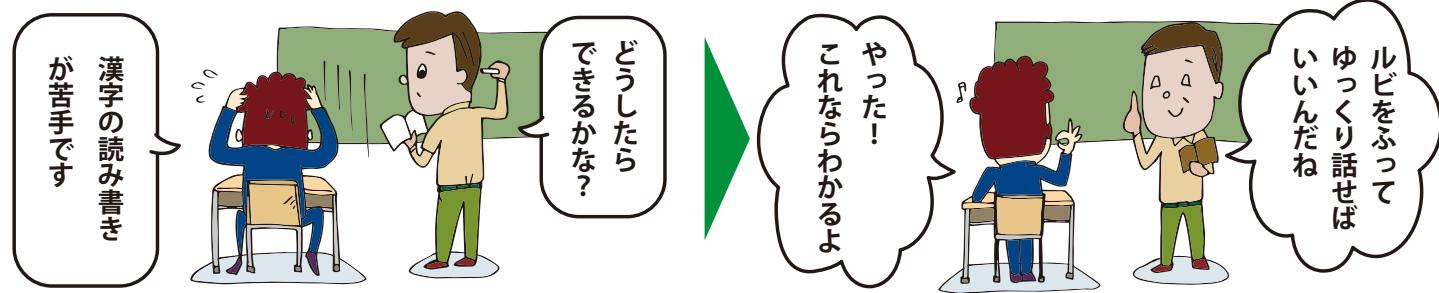
沖縄県教育委員会委託:合理的配慮に係る教育支援機器等整備事業



具体的には、様々な場面でこのような合理的配慮(工夫)が考えられます。



見方を変えて
一緒に考えると大きな発見があります。



生徒は個性いろいろです。生徒の数だけ指導方法があるといえます。そのため、今は指導する大人のほうが接し方を変えていかなければならない時代です。

生徒たち一人一人、誰しもが違った個性を持っています。得意なこと、苦手なこと、それぞれ違うので、なかには、みんなと同じ方法、同じペースで学ぶのが難しい生徒もいます。

そんなとき、「どうしてできないの?」と責めるより、視力の悪い人がメガネをかけるように「どうしたらできるかな?」と一緒に考え、その生徒にあった学習方法が見つかれば、きっと学びやすくなるはずです。(ユニバーサルデザイン)

通常の学級にいる生徒たちは、学習のしやすい感覚や処理様式(学習スタイル)がみな異なります。例えば、書き取りが苦手な生徒がIT技術を用いて、音声ガイドに沿った学習スタイルに変更するなどです。それぞれの生徒が、自分の学習スタイルに合ったやり方で学習に取り組めることが大切です。私たち大人がみんな一緒にいいという価値観から、みんな違っているのが自然だという価値観への転換をすることで、お互いの個性を尊重し、多様性を受け入れができる生徒たちを育てることができます。それが、社会の偏見や差別、いじめの解消につながるはずです。